

CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	愛知海運本社事務所計画	階数	地上6F	
建設地	名古屋市中区浜二丁目125番地14号	構造	S造	
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	150 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	2,450 時間/年(想定値)	
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2020年10月6日	
敷地面積	1,049 m ²	作成者		
建築面積	681 m ²	確認日	2020年10月6日	
延床面積	3,671 m ²	確認者		



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE 1.7 ★☆☆☆☆ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C ☆: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C	☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 60%: 30% 標準計算 ① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+オフサイト手法 (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.6 音環境 3.3 温熱環境 3.7 光・視環境 3.3 空気質環境 3.8	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 4.1 機能性 4.0 耐用性 4.0 対応性 4.2	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 4.1 生物環境 3.0 まちなみ 5.0 地域性・ 4.0
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.1 建物外皮の 3.8 自然エネ 4.0 設備システ 3.0 効率的 2.5	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.3 水資源 3.4 非再生材料の 3.4 汚染物質 3.3	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4 地球温暖化 3.5 地域環境 3.5 周辺環境 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 名古屋港へと続く江川線に面した敷地を考慮し、東南面はガラスサッシと木調のルーバーによって端正な表情をつくるとともに、外構は積極的に緑化を行うことで景観に配慮している。	その他	
Q1 室内環境 Low-eガラスの採用、断熱材の強化により外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮している。ブラインドや底を採用するなど光・視環境に配慮している。また、F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、空気質環境にも十分配慮している。	Q2 サービス性能 天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮。階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。内装は防汚性に配慮した材料を使用するなど維持管理に配慮。電気設備は非常用発電機を採用、情報通信設備は通信設備の多様化、また、補修必要間隔の長い仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。視線を遮らない様な樹木の配置、防犯カメラの設置など防犯性に配慮している。空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。
LR1 エネルギー 全熱交換型換気による熱回収、照明のLED化により省エネルギーを図っている。	LR2 資源・マテリアル 自動水栓などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。また、OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO₂排出率を86%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

愛知海運本社事務所計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.2
LR1	エネルギー	3.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.4
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.2



2. 自然共生

評価点 = 2.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.4



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。